第２号議案　事業報告および活動計算に関する事項

2024 年度 事業報告書

１．事業活動方針

環境問題に関する政策提言、調査研究、普及啓発、交流等に関する事業を行い、環境の保全に寄与する。

２．事業内容

（１）環境問題に関する政策提言

１）持続可能な脱炭素社会に向けた政策提言

内容：脱炭素に向けた動きが世界中で加速しているが、その実現にはかなりの困難が予測される。そうした中、当会として「今こそ、まっとうな日本の気候政策を創ろう」キャンペーンを科学者そして他の NPO や関心ある市民とも連携して展開し、政治家や政府への働きかけを強化するとともに、出版、セミナー等普及啓発を通じて、脱炭素社会に向けた機運を高めた。

日時：実行委員会　2024 年４月より毎月数回の開催

：キックオフシンポジウム(2024 年６月４日日比谷図書館コンベンションホール)

：連続セミナー（10 月４日～12 月 17 日の間に計 6 回、オンライン）

従事人員：４名

対象：政府、一般市民、企業等

２）日本国憲法に環境（持続性）原則を導入することについての政策提言

内容：2019 年９月にまとめた「日本国憲法に「環境（持続性）原則」を追加する提案（第五次案)」をベースに、政治状況にも配慮しつつ、政党や一般市民などに呼びかけたほか、2025 年２月７日に日本弁護士会館に於いて、日本弁護士連合会環境部会のメンバーに当会の提案を説明した上で、意見交換を行い、当会の憲法提案と弁護士会の環境基本法改正提案の双方の連携の必要性について話し合った。

日時：2024 年４月より随時

従事人員：３名

対象：一般市民、メディア、政党等

３）グリーン連合活動

内容：2015 年６月に設立したグリーン連合の活動に対して、引き続き、幹事として、市民版環境白書（グリーン・ウォッチ）の発行支援、環境省との定期的な意見交換、勉強会等を他の NPO と連携して継続的に行った。特に 2023 年度から開始した環境 NPO の社会的地位の向上のための活動を他の NPO と連携して継続した。

日時：シンポジウム（2024 年 6 月 21 日）環境省との意見交換会（2025 年３月 12 日）
幹事会毎月
従事人員：３名
対象：会員および一般

（２）環境問題に関する調査研究
１）調査研究
①市民版環境白書 2025（グリーン・ウォッチ）の発行支援
内容：グリーン連合が設立以来継続している市民版環境白書の 10 冊目となる 2025 年版（電子版）の発行を支援した。
日時：2024 年４月～2025 年３月
従事人員：２名
対象：会員および一般

②「未来世代の権利に関する」プロジェクト
内容：2023 年度に引き続き、「未来世代の権利」を社会制度の中に組み込むことに関して検討する予定だったが、「今こそ、まっとうな日本の気候政策を創ろう」キャンペーン事業が多かったことから、その中で検討しつつも、独自の事業として行うことはできなかった。

③「気候危機脱出法（仮称)」作成プロジェクト
内容：ますます深刻化する気候危機を脱するには、現在の各省庁に分散した施策を包括的に捉えた法律・制度が必要であり、各省庁及び国民各層の連携した取組を可能にする仕組みが必要である。気候危機の主要な責任を負う先進国の一員として、科学と倫理に基づくまっとうな政策にしていくために、近い将来、志を同じくする多くの仲間と連携し、気候危機を包括的に捉えた「気候危機脱出法（仮称)」の議員立法による制定が必要と考える。今年度は会員である科学者や他の NPO とともに「有志連合」を立ち上げ、6 月には『日本の気候変動・エネルギ―政策の課題と提案』をとりまとめ、それをもとにキックオフシンポジウムの開催、国会議員を始め政策決定者に配布。また 2025 年 3 月には「まっとうな日本の気候政策を求める緊急声明」などを発表した。
日時：2024 年４月より
場所：オンラインまたは都内での開催
従事人員：４名
対象：会員及び一般

（３）環境問題に関する普及啓発

１）会報の発行

内容：会報 「環境と文明」 を発行した。発行から３か月後にウェブ上での全文掲載を実施した。

	発行月	月毎のテーマ
2024 年	4月号:	経営者「環境力」大賞特集
	5月号:	憲法に環境・持続性原則を入れることの是非
	6月号:	環境政策にかかる費用
	7月号:	まっとうな日本の気候変動を
	8月号:	暑い夏の日に思うこと
	9月号:	市民力と市民参加
	10月号:	気候危機の時代の新たな暮らし・適応策
	11月号:	なぜ日本政府は気候政策に熱心に取り組まないのか
	12月号:	新政権による気候政策の動向
2025 年	1月号:	脱炭素への今年の予測
	2月号:	気候変動による生活への影響
	3月号:	トランプ・ショックをどう受け止めるか

日時：毎月 15 日、年 12 回発行

従事人員：４名

対象：会員および一般

２）環文ミニセミナーの開催

内容：会報の寄稿者による内容解説と意見交換のための１時間のオンラインセミナーを本年度も継続し、10 月以降は、「今こそ、まっとうな日本の気候政策を創ろうキャンペーン」の一環として連続セミナーを 6 回開催した。

日時：第 30 回 2024. 4. 19「米国のエネルギー・気候変動対策最新情報」明日香壽川氏

第 31 回 2024. 7. 12　「憲法と環境権について」淡路剛久氏

＜連続セミナー＞

第 1 回 2024. 10. 4 「まっとうな気候政策を」 西岡秀三氏

第 2 回 2024. 10. 15「日本の気候政策はまっとうなのか？」増井利彦氏、明日香壽川氏

第 3 回 2024. 10. 29「何がまっとうではないのか？」
大野輝之氏、松下和夫氏、桃井貴子氏

第 4 回 2024. 11. 26「大統領選挙後の米国と EU、特にドイツの気候政策」
田村堅太郎氏、一方井誠治氏

第 5 回 2024. 12. 3　まっとうな気候政策と市民参加」吉田明子氏、三上直之氏

第６回 2024.12.17　「まっとうな気候政策に求められる公平性・環境倫理」
江守正多氏、藤村コノエ、加藤三郎

場所：オンライン開催
従事人員：４名
対象：会員および一般

３）経営者「環境力」大賞の顕彰式及び発表会

内容：17 回目となる「2024 年度 経営者「環境力」大賞」の公募を行い、2025 年１月 10 日に審査会を開催して５名を大賞に、２名を奨励賞に選考した。２月 28 日には顕彰式並びに発表会を開催した後、第二部では、京都大学名誉教授松下和夫氏より、脱炭素時代の企業経営について「持続可能な地球と環境経営」と題し話題提供を頂いた。

日時：2025 年１月 10 日　審査会（オンライン開催）
2025 年２月 28 日　顕彰式・発表会（オンライン併用開催）
場所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷（顕彰式・発表会）
従事人員：５名
対象：会員および一般

４）環境文明塾の開催

前年度最終回の文明塾を６月９日に対面で開催し、年度後半から新規の開催を予定していたが、募集時期が遅れたことや、環境力クラブ関係の事業者に対する研修事業が多く、開催できなかった。

５）シンポジウム等の開催

①グリーン連合シンポジウムの開催支援

内容：グリーン連合加盟の各団体から、テーマごとに環境の現状と課題、解決に向けた提案などについての話題提供を行った。

日時：2024 年６月 21 日
場所：オンライン開催
従事人員：３名
対象：会員および一般

②「今こそ、まっとうな日本の気候政策を創ろう」キャンペーンキックオフシンポジウム開催

内容：研究者や他の団体とも連携し、日本の気候政策の正常化を訴えるキャンペーンのキックオフとして、シンポジウムを開催した。研究者、NGO・NPO、企業、メデ

ィアなど幅広い分野からの参加者より発表があり、成果文書として宣言文をまとめた。＜（１）１）＞

日時：2024 年６月４日

場所：日比谷図書館コンベンションホール

従事人員：４名

対象：会員および一般

③「憲法に環境（持続性）原則を」に係るシンポジウムの開催

内容：当会独自の提案である当件に関し、その実現のために毎年一回関連イベントを開催する予定だったが、選挙や国会開催の時期なども関係して開催できなかった。代わりに、2025 年２月７日に日本弁護士会館に於いて、弁護士グループとの意見交換を行った。＜（１）２）＞

従事人員：２名

対象：会員および一般

（４）環境問題に関する交流

１）全国交流大会

内容：「脱炭素時代を生きる覚悟と責任」と題したオンラインセミナーを開催した。最初に「今こそ、まっとうな日本の気候政策を」キャンペーンの意義について西岡秀三氏から説明があり、続いて「『脱炭素』時代を生きる覚悟と責任とは」と題し、当会代表 藤村コノエ及び顧問 加藤三郎が、日本特有の持続性を涵養する文化をベースにした脱炭素時代の生き方について話題提供を行った。その後４グループに分かれてディスカッション、全体での発表、意見交換を行った。

日時：2024 年 12 月８日（オンライン開催）

従事人員：４名

対象：会員および一般

２）エコツアーの開催

内容：海洋プラごみのガス化、環境性能に優れた「低炭素アンモニア」の生成などケミカルリサイクルに取り組む株式会社レゾナックの川崎事業所を 12 名で訪問した。見学バスにて破砕成形設備及びガス化設備を見学した後、同社のプラスチック・ケミカルリサイクルについて説明を受けた。その後、川崎市環境局生活環境部廃棄物政策担当部長　山本隆之氏より、川崎市のプラスチック資源循環などの取組みについて説明を受けた。

日時：2024 年 11 月 20 日

場所：株式会社レゾナック川崎事業所（神奈川県川崎市）

従事人員：３名
対象：会員及び一般

３）環文サロン

内容：会員同士の交流を深め、参加者同士が気軽に会話できる場として、オンラインにて定期的にサロンを 10 回開催した。
日時：2024 年 4 月 5 日、5 月 10 日、6 月 7 日、7 月 5 日、8 月 2 日、9 月 6 日、11 月 8 日、2025 年 1 月 9 日、2 月 7 日、3 月 7 日
場所：オンライン開催
従事人員：１名
対象：会員

４）経営者「環境力」クラブの活動

内容：本年度も総会、勉強会をオンライン併用にて開催した。勉強会では脱炭素経営の実践事例を紹介し、コロナ後初の懇親会も開催することができた。更に、昨年に続き定例会を６回行った。
①総会・勉強会（オンライン併用開催）
日時：2024 年 7 月 16 日
場所：株式会社大川印刷横浜スタジオ「with GREEN PRINTING」
話題提供：「リマテックグループの脱炭素の取組み」
田中靖訓（リマテックホールディングス株式会社代表取締役社長）
②定例会(オンライン)
第 1 回（4 月 12 日）、第 2 回（7 月 16 日総会後）、第 3 回（9 月 10 日）、第 4 回（11 月 19 日）、第 5 回（2025 年 1 月 14 日）、第 6 回（3 月 11 日）
従事人員：４名
対象：経営者「環境力」クラブ会員

５）支部活動

①関西グループ

内容：地域の市民および市民団体等との交流・意見交換。エコサロン大阪の開催。
日時：随時開催
場所：奈良県、大阪府等
対象：会員および一般

（５）その他

１）インターンの受け入れ

内容:SOMPO 環境財団の CSO ラーニング制度を活用し、インターンを１名受け入れた。
今年度は対面を中心に、マレーシアからの留学生を受け入れた。
日時：2024 年６月～2025 年１月
場所：環境文明２１事務局（オンライン併用研修）

２）インターン卒業生のネットワーク構築

内容：現役インターンと過去のインターン生とのコミュニケーションを進め、インターン経験者同士の情報交換と環境活動への参加の促進を目的に、昨年同様に意見交換会を対面とオンラインにて開催した。
日時：　2024 年８月 24 日
従事人員：２名

３）会員の状況

2025 年４月末現在　254 名　（正会員 67、学生 0、賛助個人 144、団体 11、企業 17、購読 14、サポーター1）
2024 年４月末現在　266 名　（正会員 68、学生 0、賛助個人 152、団体 11、企業 17、購読 17、サポーター 1）
2023 年４月末現在　282 名　（正会員 71、　学生 0、賛助個人 164、団体 11、企業 17、購読 18、サポーター 1）
2022 年４月末現在　290 名　（正会員 74　学生 1　賛助個人 168、団体 11、企業 18、購読　17、サポーター 1）
2021 年４月末現在　304 名　（正会員 71、学生 1、賛助個人 181、団体 13、企業 19、購読 16、サポーター 3）
2020 年４月末現在　320 名　（正会員 74、学生 0、賛助個人 194、団体 13、企業 19、購読 17、サポーター 3）
2019 年４月末現在　318 名　（正会員 72、学生 0、賛助個人 198、団体 13、企業 18、購読 13、サポーター4）
2018 年４月末現在　331 名　（正会員 69、学生 2、賛助個人 214、団体 13、企業 19、購読 14）
2017 年４月末現在　340 名　（正会員 68、学生 4、賛助個人 218、団体 15、企業 20、購読 15）
2016 年４月末現在　359 名　（正会員 69、学生 6、賛助個人 229、団体 15、企業 25、購読 15）
2015 年４月末現在　382 名　（正会員 70、学生 6、賛助個人 247、団体 15、企業 26、購読 18）